

句 帖

(曲水2-4)

九月十一日 青木幸太郎宛

夾竹桃に暁の鳥ゐて小雨かな  
起し絵や廊の中の煙草店  
風鈴の短冊飛んで石路にあり  
板廂に雨来し廻り燈籠かな

寒燈句会

(9月15日)

冷かに葛の葉懸けし大樹かな

(9月22日)

夜学人に高く打ちたる時計かな

葡萄棚に高く暗れたる夜空かな

吟社十月例会 席題「草の花」

( )

富士見えしが又降る雨や草の花

ある人に

草花の咲く野の家を忘れしか

句 帖

(曲水2-5)

仲秋の海に對けたる机かな

町の灯に遠く月ある花野かな

税関の旗に風なし雲の峰

曼珠沙華咲くひと、こや山の湖

年木樵る罅や晴れし峰の寺

霧 (野鳥選)

霧の灯に人の行来や浅草寺

御無沙汰を重ねつつ昨夜更けて上京致候、東京の地を踏めばこの二カ月の句作をなまけしが痛切に悔いられ申候。本日学校よりの帰途苔雨兄を訪ねて何か御勉強の由承はり御奮励の程感じ入り候。折角御健勝を祈り候。来る上曜の晩御目にかかるが楽しみに御座候。

九月十九日 青木幸太郎宛 午後九時半 長

今晚はわざわざ御光来被下候由を不在いたし何とも申訳なく且つ残念に候。実は先夜先生よりの御命令にて午前中より出掛け候ところ例の通りにて大した用もなければ帰ることもならず只今まで御邪魔いたし候次第。なほ来る二十三日の吟行は晴雨に係らず午前十時までに先生御宅へ参集の由昼食はそばや入自弁の筈に御座候。先は右まで。

十二月二十八日 青木幸太郎宛 深更 厚一

先夜は失礼いたしました。また今晚は折角お訪ね下さいましたのを不在いたしました。また今晩は折角お訪ね下さいましたのを不在いたしました。私には明日は帰るのびく／＼になつてをります。明後三十日の午前の汽車では是非とも帰りたいと思つてをりましたが、今日先生から同夜曲水が出来るから来いとのお御はがきで又一と思案しなければなりません、然し方が一あなたも静岡においでになりますやうな事があれば御一緒に願ひたいと存じます。明二十九日夜十時半頃からは在宅いたします御はがきなりと戴けますまいか。